

鉄鋼環境基金

助成研究成果表彰 表彰式・講演会開く

鉄鋼環境基金は4日、東京・茅場町の鉄鋼会館で、第9回助成研究成果表彰(理事長賞・技術委員長賞・鉄鋼技術賞)の表彰式と受賞記念講演会を開催した。受賞者は、福島裕法理事長(JFEスチール専務執行役員)

から賞状と副賞が贈られた後、各受賞テーマに基づいた記念講演を行い、産学連携の取り組みによる環境技術の研究成果を紹介した。表彰式の冒頭、あいさつに立った福島理事

長は「本財団のように民間の資金を活用した研究助成事業は、助成される側と助成する側相互にとって有益なこ

とが大事。活動資金を提供していただく皆さまのご理解と、研究を進められる先生方のご協力に御礼申し上げたい。今後も本財団の助成事業が産学連携のお手本となるように努力していきたい」と述べた。



福島理事長(左)と受賞者一同(中央から夏井氏、坪内氏、桑原氏)

続く受賞記念講演では、グラブプリに相当する理事長賞を受けた坪内直人(北海道大学大学院工学研究院准教授が「安価な低品位褐鉄鉱を用いるコークス炉ガス中の含窒素化合物の分解

除去法の開発」をテーマに説明し、若手研究者を対象に贈られる技術委員長賞で表彰された夏井俊悟(北海道大学大学院工学研究院助教も「高反応性原料の3次元ヘリカル構造による低炭素高炉の固気流れ安定化」と題して講演した。鉄鋼業の環境技術発展に貢献する研究に贈られる鉄鋼技術賞を受賞した桑原泰隆(大阪大学大学院工学研究科助教は、「高炉スラグを原料としたリソ吸着材の合成と実排水からの効率的リン回収・再資源化技術の開発」について解説した。